

第205回くらしの植物苑観察会 2016年4月23日(土)

-江戸の花とさくらそう-

半田 高(明治大学農学部 教授)

「我が国は草も桜を咲きにけり」(小林一茶)

今年もさくらそう(平仮名で書くと優しい感じですね)の季節がやってきました。春の到来の喜びを桜の開花で感じてきた日本人は、野山で桜に似た愛らしい花を咲かせる草に「桜草」と名付けました。野生の桜草の栽培や観賞は室町時代に京都の宮廷文化で始まったとされます。その後、江戸中期の享保年間頃からは武士層を中心に、後期の文政年間になると庶民が中心となって、様々な形や色・模様の園芸品種が栽培されるようになりました。国立歴史民俗博物館くらしの植物苑「伝統の桜草」では、江戸時代から現代にいたる約400品種の桜草が展示されています。ここでは、桜草の自生地から園芸品種がどの様に生まれてきたのか、また、江戸時代という日本の花の品種改良と園芸文化にとって重要な時代についてご紹介させていただきます。

日本は東西南北に細長い島国で、3000m級の山々や多くの火山があり、沢山の島々を有するなど、極めて変化に富んだ国土です。この日本列島は、地球の中緯度で亜熱帯・温帯・亜寒帯の気候帯に属し、かつ海洋性気候と大陸性気候の影響を受け、豊富な降水量と温度変化のはっきりした四季があります。このため、北海道から南西諸島、日本海側と太平洋側、山地と平地、内陸と海岸など様々な環境です。この多様な環境に適応するために、狭い国土にも関わらず、植物は多種多様な変化を遂げて、多くの種・変種が自生しています。

日本人は、これら野山に咲く美しい花々を愛で、また仏教や薬用などで入ってきた外来の観賞植物も加え、独自の美意識と選抜眼で数多くの品種を作り出してきました。特に、270年近く続いた江戸時代には、桜、躑躅・石楠花、朝顔、菊、花菖蒲、椿・山茶花、梅、牡丹・芍薬、紫陽花、百合、藤、蘭など、多くの花で様々な品種が作られました。くらしの植物苑では、これらの内のいくつかを苑内の植栽や特別企画展で見ることができます。

江戸時代はそれまでの不安定な戦国時代とは違い、武士や庶民が落ち着いて日々の暮らしを楽しむことができ、花好きの権力者(殿様)の存在もあり、競い合って花を愛でる文化も生まれました。また、江戸、京都・大阪、伊勢・松阪、奥州、肥後など各地で、菊、花菖蒲、撫子、椿、芍薬、朝顔などが、地域の文化的背景に基づいた独自のスタイルを確立しています。人工交配の知識がなかった時代にも関わらず多くの品種が生み出された背景には、参勤交代で全国から江戸に集められた花同士での交雑や、鎖国で長崎・平戸に入ってきた大陸・台湾・琉球の花との交雑など、各地の植物が限られた場所に集められたことも偶発的に新品種を生む素地となりました。鎖国の中で江戸を訪ねた英国人のフォーチュンが日本人の花好きと庶民の文化程度の高さを称賛し、オランダ人のシーボルトが多くの日本の園芸植物を欧州に持ち帰って日本産園芸植物ブームの火付け役となったのは有名です。西洋の花の品種改良は、バラで典型的な様に、鮮やかな色、大型、八重咲きや房咲きなど、はっきりと目立つ

派手さに価値をおくことが多いのですが、日本では桜草で見られる様に、淡い色、小型、一重など、自然観を映した品種が多くみられます。また、色や形の微妙な違いを求め、斑入りや奇形したものにまで価値を見出したのも日本人の美意識です。さらに、江戸時代には観賞するための仕立て方、道具や環境作りにも配慮がなされてきました。菊の接ぎ分け・懸崖・人形や、盆栽、花壇づくり、観賞用の鉢など多くの園芸文化や園芸用品が江戸時代に生まれています。

日本人の美意識、文化、栽培技術などを集大成した江戸の園芸は、貴重な有形無形の文化遺産でもあります。桜草の遺伝子解析からは、すでに現在の自生地では見つからない遺伝子が、江戸時代に作出された品種の遺伝子にだけ受け継がれていることも明らかにされました。江戸時代に始まった花愛好家の集まりである「連」を母体とした古典（伝統）園芸植物の愛好会は、構成員の減少や高齢化と共にその存続が危ぶまれています。絶滅危惧なのは野生植物だけでなく、貴重な伝統園芸植物にも当てはまり、一刻も早い対策が求められます。そのためには、植物園や大学など公的機関での保存に頼るだけでなく、江戸時代の庶民のように、市民の皆さんの取り組みがとても重要です。園芸大国の英国には、ナショナルコレクションという栽培植物の保存・増殖・記録組織が民間団体によって運営され、植物の種類ごとに国内各地の団体を指定しています。

一度失ってしまった品種を再び蘇らせるのは、不可能あるいは極めてコストと時間のかかる作業です。今回のくらしの植物苑の展示を通じて、日本の貴重な遺伝資源や文化遺産である伝統園芸植物と伝統園芸文化が後の世代にも受け継がれていくことを願ってやみません。



.....

次回予告	第206回くらしの植物苑観察会	2016年5月28日（土）
	「古代王権と植物」 松木 武彦	（当館考古研究系・教授）
	13:30～15:30（予定）	苑内休憩所集合 申込不要